



ネパール

45 クリカニ防災事業(2)

A

B

C

D

カトマンズ近郊のクリカニダム上流において、砂防ダムの建設等本格的な防災工事により、水力発電所の安全かつ効率的な運営の確保を図り、もってネパールにおける電力の安定供給に寄与する。

承諾額/実行額 34億8,400万円/24億6,600万円
 借款契約調印 1996年5月
 借款契約条件 金利1.0%、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイド
 貸付完了 2001年7月



外部評価者 南村亜矢子(アイ・シー・ネット(株))
 現地調査 2003年7月

評価結果

本事業では、ほぼ計画通りに防災工事が実施された。期間は実施機関の内部手続きの遅延、および契約交渉不調に伴う再入札などで計画を大幅に上回ったが、事業費は競争入札等による効率的な受注等により計画を下回った。砂防ダム建設と取水口閉塞対策により、貯水池への年間土砂流入量は、1993年度の480万 m^3 に対して、96～2002年度の平均では29万 m^3 へと大幅に減少し、発電所(第1・第2合計92MW)および貯水池の寿命は事業実施前に15年であったものが実施後には50年と、約3.3倍に延長している。また、防災体制が確立された結果、02年度に発生した100年確率※の豪雨(日降水量325～455mm)の際も両発電所の運転は影響を受けることがなかった。発電所の稼働率は99%を維持しており(事業実施前は80%)、ネパールにおける安定的な電力供給に貢献している。実施機関であるネパール電力庁(NEA)の技術、体制、財務面については問題

はない。ただし、財務面は、十分な自己資本を有しているものの、00～02年度に赤字を計上しているため、収益力の強化が必要とされており、当行の調査によって電気料金の効率的徴収、および人員削減等が提言されている。クリカニ水力発電所は、同国における発電所設備容量の16%を占める国家電力供給の最重要拠点であるが、厳しい自然環境下にあるため、予算措置を含め運営・管理に最大限配慮することが望まれる。

※ おおむね100年に1度発生する規模。

第三者意見

安価で豊富な電力を供給できるクリカニ水力発電所は、過去に2度の大きな洪水被害を受けた。本事業による中長期的な防災対策によって、同発電所の安定的な操業が確保された。

有識者 Mr. Dilli Raj Khanal

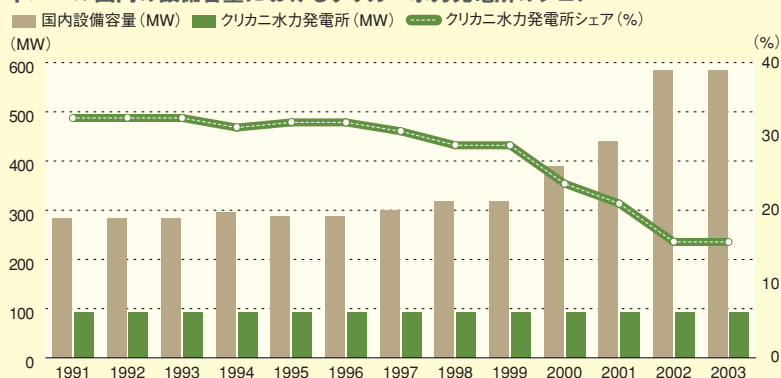
ラジャスタン大学博士課程修了(経済学)。現在政策研究開発学院院長。専門は国土計画など。

ダム取水口の改修



取水口が堆砂によって閉塞されるのを防止するため、本事業により、取水口を堆砂標高に合わせて上昇させることができる施設に改修された。

ネパール国内の設備容量におけるクリカニ水力発電所のシェア



出所:NEA

クリカニ水力発電所は、現在も国家電力供給の最重要拠点であるため、厳しい自然条件下にある同発電所の運営・管理(予算措置を含む)への最大限の配慮が望まれる。